

貝塚市新庁舎整備事業 市民ワークショップ

ニュースレター vol.2



貝塚市では、庁舎が防災拠点として必要な機能を担い、また、市民の利便性を向上させるため、現在、「新庁舎整備事業」に取り組んでおり、新庁舎の考え方の基準となる「庁舎計画」策定にあたっての参考とさせていただくため、公募及び市内各種団体の推薦で選ばれた委員の皆様に参加いただく市民ワークショップ(全3回)を開催しています。(第1回の開催概要については、ニュースレターvol.1をご覧ください。)

全
3
回

**第1回
市民ワークショップ(開催済)**
平成30年7月21日(土)
テーマ
「2060年の貝塚市での
暮らしを考える」

**第2回
市民ワークショップ**
平成30年8月25日(土)
テーマ
「市民と貝塚市役所の
関係を考える」

**第3回
市民ワークショップ**
平成30年9月22日(土)
テーマ
「新しい貝塚市役所への
提案」

第2回市民ワークショップを開催しました！

8月25日(土曜日)に貝塚市新庁舎整備事業 第2回市民ワークショップを開催しました。最初にファシリテーターの若本准教授(大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻)から、話し合いに向けてのアドバイスがあり、第1回と同様に3グループに分かれ、3つのプログラムについて、意見交換をしました。

プログラム1「2060年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている?」、プログラム2「これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える」、プログラム3「新庁舎に必要なことを考える」について話し合い、最後に各グループから主な意見を発表していただきました。

以下に、それぞれのグループで話し合った内容の一部を紹介します。

Aグループ

主な意見



<プログラム1>

2060年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている?

- ・あらゆる人々の目的に応えることができる多面性のある場所となっている。
- ・子どもを産みやすい、育てやすい「貝塚」となっている。等

<プログラム2>

これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える

- ・全ての市民が訪れやすい市役所であるようにする。
- ・防災面で安全で安心できる備えがある。
- ・気軽に立ち寄れる、いろいろなことができる。等

<プログラム3>

新庁舎に必要なことを考える

- ・貝塚には市民の主体的な活動が多くあるので、それらをつなげられる場所がある。
- ・避難スペースにも活用できる多目的な場所がある 等



B グループ

主な意見



<プログラム 1>

2060年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている？

- ・教育拠点としての機能（貝塚の自然を生かした体験型）がある。
- ・子ども、高齢者、障害者、誰もが使いやすくなっている。
- ・未来形の子育てを考えたまちになっている。 等

<プログラム 2>

これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える

- ・組織に縛られない市民の活躍の場を提供する。
- ・いつでも参加できるボランティアの簡単な登録制度をつくる。
- ・子育て支援をもっと盛んにする。 等

<プログラム 3>

新庁舎に必要なことを考える

- ・防災関連スペースを充実する。平時のスペースは他の利用を行う。
- ・将来を見据え、他の機能に使えるよう変化できる部屋、間取りとする。
- ・授乳室も兼ね備えた多目的なトイレをつくる 等



C グループ

主な意見



<プログラム 1>

2060年の貝塚市役所、シビックゾーンはどうなっている？

- ・市民が集まるような交流スペースが中心のシビックゾーンとなっている。
- ・子どもが安心して遊べる場所となっている。 等

<プログラム 2>

これからの市役所の役割、市民の関わり方を考える

- ・防災拠点の役割を担う。
- ・市民交流の場となる。ボランティアの活動拠点となる。
- ・待ち合わせの場所となる。 等

<プログラム 3>

新庁舎に必要なことを考える

- ・太陽光発電など災害時に使えるエネルギー設備を設ける。
- ・待つ間も交流できる憩いのスペースがある。
- ・庁舎にコンビニを設置する。 等



* 紙面の都合上、いただいたご意見の一部を掲載しています。

意見発表の後、ファシリテーターからアドバイスを受け、講評していただきました。
最終回は、9月22日（土曜日）に開催予定です。

発行日：平成30年9月18日

発行者：貝塚市 総務市民部 総務課

お問い合わせ：【電話】072-433-7073 【ファックス】072-433-7511（代表）

